

平成28年度第8回石狩市厚田区地域協議会

【日 時】 平成28年12月19日(月) 17:00 ~ 18:15

【場 所】 みなくる

【出席者】 9名(15人中)

役職	氏名	出欠	役職	氏名	出欠	役職	氏名	出欠
会長	佐藤 勝彦	○	委員	小山 玲子	○	委員	中井 健太	
副会長	渡邊 教円		委員	今 光 江		委員	平賀 敏和	○
委員	大内 さつき	○	委員	坂本 悌生	○	委員	前田 和也	○
委員	大黒 利勝	○	委員	柴田 志寿子		委員	築田 敏彦	
委員	小笠原 英史	○	委員	柴田 肇	○	委員	吉田 美香	

※正副会長を除き、あいうえお順

本 庁 ~ 企画経済部渉外調整担当 中西参事・吉田アドバイザー・稲垣主査
支 所 ~ 西田支所長・田村生涯学習課長(兼市民福祉課長)・沼倉隊員
事務局 ~ 高田地域振興課長・相原主幹・佐藤主査・渡部主査・中村主任
(地域振興課)

【傍聴者】 0名

- 【次 第】
1. 開会
 2. 会長あいさつ
 3. 報告事項
 - (1) 12月12日開催の厚田区自治懇話会について
 - (2) 市の文化財指定(わに口)について
 4. その他
 - (1) 座談会形式
 - ・近説遠来と「道の駅」の利活用について
 - ・区としてのもてなしの機運づくり
 5. 次回の日程について
 6. 閉会

1. 開会

【(厚) 地域振興課 高田課長】

皆さんお晩でございます。第8回の協議会を始める前に、今日は渡邊副会長、今委員、柴田志寿子委員、築田委員の4名から欠席の連絡を受けておりますので、報告させていただきます。

それでは、第8回厚田区地域協議会を開催いたします。佐藤会長、開会のご挨拶をお願いいたします。

2. 会長あいさつ

【佐藤会長】

お晩でございます。

12月になると師走といって落ち着かない時期になりますが、私事ですがこの時期にベートーベンの第九を聞くことを毎年の恒例にしていますが、今年聞いていまして改めて気づいたことがあります。それはですね、第4楽章になると楽器が対話を重ねていくんですね。喜びや歓喜はこうかと言ったら、いや違う。これでもか、と言ったらまだ違う、と言う風に楽器が対話をしながら、歓喜を最高潮に持っていく演出に感銘しました。なぜ、このような話題を紹介したのかというと、年の瀬が迫ってきますと、行く年来る年と言って、必ず時代を変えていくわけですね。振り返って地域が元気に活性化していくためには、結構長い時間が掛かるのではないかと思うわけです。地域協議会が発足して11年になりますが、これだけ長い時間を掛けて、成果が本当に出ているかどうか。一面的には出ていると思いますし、違う面から見るとまだまだ成果が出ていないと言えると思います。長く続けるためには、実は皆さん平等に歳をとっていきますので、後継者を育てなければなりません。地域を活性化するという息の長い活動をするのであれば、それに見合った後継者を同時に育てていかないと、ある時に歳をとって息切れをして、そこで地域が行ってきた活動が、そこで途切れてしまう。バトンを渡すべき若者、あるいは後継者を育てていく意識を私たちは持たなければならぬと、この12月に入るといつも思うわけです。

そういうことで、この地域協議会も地域のために次の世代に引き継げるために、そういう意識でもって、また新しい年を迎えられればと、思い挨拶させていただきました。

今日は報告事項と地域づくり、特に道の駅と地域がどのように関わっていくか、ということ座談会形式の中で討議したいと思いますので、よろしくお願いします。

3. 報告事項

【佐藤会長】

それでは報告事項に入らせて頂きます。よろしくお願いします。

12月12日開催の厚田区自治懇話会について

【(厚) 地域振興課 相原主幹】

皆さんこんばんは。地域振興課の相原です。

12月12日に厚田区自治懇話会が厚田保健センターで行われました。

この席上は田岡市長をお呼びして、市の情勢などの意見交換や、自治会を始め地域振興に取り組まれている方々と情報交換をしようということで開催されたものです。自治会からは会長始め各五連の方からおおよそ2名ずつで総勢9名の方に出席頂きました。市の方からは市長を始め関係部署から総勢9名の方に出席頂いております。支所の方からも支所長始め6名が出席しました。

まず、市長の方から講話ということで、現在の市の状況について説明がありましたので、何点かご紹介させていただきます。

11月26日と27日に輪島市門前で新そば祭がありまして、石狩市からは市長と議長、そして厚田区からは輪島市門前町との推進の会の方々と訪問したときの内容の紹介がありました。

それから、これは後ほどの座談会の所でもお話ししたいと思います。道の駅の建設が進んでいますが、その中で道の駅が出来たときに市民の関わり方が、どのような形になるか。これが非常に鍵だと。例えばイベントや、地域の人が楽しめる催しも行ってはどうかと話されていました。

それから、市の人口の統計に関する話もありました。石狩市については出生数が全道的に見ても非常に低い状況にありまして、ここは施策の部分から改善出来るのでは、との話がありました。例えば、子育て世代をどう取り込めるか、ということによって非常に変わってくる数字だと。

その他には、石狩市が外から見たときにどのように見えるか、という話がありまして、その中で障害者の施策については、非常に評価がされていると。ただし、視覚障害者への施策については、旧厚田村のほうが評価が高く、そこはこれから様々な施策をやって行きたいと話されていました。

その後で、市の方からの情報提供ということで、危機管理の方から情報収集の手段として、メールやテレビの緊急放送を使う情報の取得手段の説明。それから高齢者関係の部分ですが改正道路交通法の話がありまし

た。

厚田区の方からは厚田区コミュニティゆめ倶楽部と石狩市民文化祭厚田会場運営協議会（文化祭実行委員）の方からの活動についてお話があり、その後、厚田区ゆめ倶楽部の方からお汁粉やかぼちゃ団子を提供して頂きましてフリートークとなりました。終始和やかな雰囲気の中で自治懇話会が開催されました。

【佐藤会長】

ありがとうございました。

いまの報告についてご質問などありますでしょうか。

《質問など無し》

つぎの報告事項に入ります。田村課長からよろしくをお願いします。

市の文化財指定（わに口）について

【(厚) 田村生涯学習課長】

皆さんこんばんは。

先日、新聞でも報道されました古潭の龍澤寺のわに口の石狩市指定文化財についてご報告します。

わに口については、昔、神社や仏閣の軒先に掛けて参拝者が鳴らした器具であったようです。

昔から神社や仏閣の檀家の方が奉納されるものであったようです。

古潭龍澤寺のわに口であります。厚田にはかつて厚田場所というものが開かれておりまして、古潭川の河口は鯨の魚場でありまして、隣接する押琴は厚田場所の中心的な寄港地となっていました。この押琴に弁天社がありまして、この弁天社が明治初期に廃止になったときに、奉納物の一部が古潭の龍澤寺に伝えられた、とされています。

このわに口は二つありまして、一つは寛政3年（1791年）に作られたもののようですが、この時期に弁天社から受け継いできたものと考えられているようです。もう一つは寛政4年（1792年）に明確な記録はないようですが、厚田場所にあった神社に奉納されていた可能性が高いと考えられているものです。

奉納者については、村山伝兵衛と言う名がありまして、この方は蝦夷地の代表的な厚田場所の魚場の請負人で石狩場所、そして厚田場所の請負をやっていた人物のようです。

このわに口の文化財の価値ですが、道内にわに口が数個ありますが、多くは道南にありまして、道央で発見されるのは珍しいようです。石狩の弁天社に伝わるわに口など、道央には数点しかない、とのこと。

市の指定ですが、これまで8件ありまして、今回のわに口が9点目になり、厚田区では初めての指定になります。本年6月に石狩市文化財保護審議会に諮問され10月27日に指定が妥当という答申を頂き、指定された運びになっています。

このわに口ですが、明治以降龍澤寺に保存されておりましたが、昭和40年代に厚田村に2つとも寄贈を受けておりまして、寛政3年のわに口については昭和45年に北海道開拓記念館（現在の北海道博物館）に寄託されています。もう一つですが、寛政4年のわに口については、以前厚田総合センターに展示していましたが、現在は石狩砂丘の風資料館に保管されておりまして、今後の展示方法について検討しているところです。

【佐藤会長】

はい。ありがとうございました。

この点につきまして、何かご質問ありますでしょうか。

《質問など無し》

それでは、その他の部分ですが【近説遠来と「道の駅」の利活用について】と【区としてのもてなしの機運づくり】について、座談会形式にて行いたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。

6. その他

座談会形式に実施。

7. 次回会議等の日程について

平成29年1月25日（水曜日）厚田総合センター

8. 閉会

平成29年1月25日 議事録確定

石狩市厚田区地域協議会

会長 佐藤 勝彦